

### 3. 随想

#### (1) 日本国土開発オペレータの思い出

金子廣明

私は昭和 29 年 3 月に入社し、王子モータープールに配属されました。日本国土開発は終戦後の国土復興と台風による災害復旧等々を行う目的で昭和 26 年設立され、当時の会社には土木、修理、運転員など 50~60 人在籍しておりました。

当時はダンプ、ショベル、ブルドーザを含め 30 台程度で、プール内では米軍払下機械が 10 台程度あり修理・整備が進められていました。

私達 50 人は花の 7 期生と呼ばれ、入社して直ぐに相模原市淵野辺の陸軍飛行場跡地の養成所で半年程の車体、エンジンの分解、組立、運転教育を受けた後、京都府綾部で河川復旧工事現場に実地教育に入りました。

当時は 1 台のブルにチーフ・サブの 2 人が乗り、チーフは運転、サブは助手席で排土板操作をしながら 10 日程度でようやく運転をさせてもらえました。

実地教育中でも整備や修理を油だらけに成りながら勤め、待機中は労務者とスッコップを持って堤防の整形などを行ってようやく養成を終え一人前の運転手と言うことになりました。多種多様な経験と勉強を積んで、多くの仲間は 8 年程でフォアマン（現場監督職）に移りましたが機械好きの私は以後機械施工に従事して来ました。その間、仲間には不幸にして落石、山崩れ、墜落で亡くなられた人も沢山居りました。先輩や後輩は他社に引き抜かれたり重機会社に転職したり、地元の若い娘、親に認められ養子に入られ立派に活躍されております。

以下は当時のオペレータ魂 10 訓を記します。

#### 《オペ魂 10 訓》

1. 機械の構造を知り、動力伝達等パーツリストで部品手配を行う。
2. 日常の水、燃料、油、部品の磨耗、グリスアップ等、整備点検は必ず行う。
3. 試運転の音で機械の状態を知る。
4. 機械の性能を熟知し、前後、左右の傾斜に注意せよ。
5. 機械の能力は最大限發揮させよ。
6. エンジン音にて作業の負荷状態を知る。
7. 作業終了後は部品の磨耗状況、油汚れの点検を行う。
8. 整備・調整・修理など応急処置の出来ないオペは失格。
9. 他社、他人と懇意になり不届きな行為をしない。
10. 特殊運転免許 1, 2 級、建設機械施工資格取得は義務だ。

私は幸い修理班の経験から酸素道具、電気溶接などの工具を使い、早期修理に勤め「理にかなう修理」で故障を防ぎコスト低減に努めました。

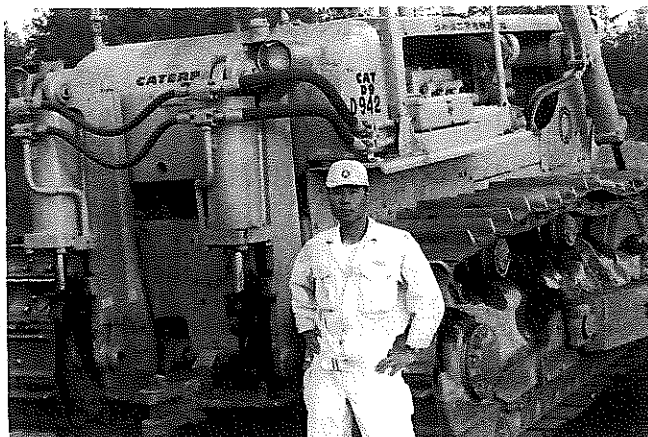
#### 《オペ言伝え 20 話》

1. 現地の地形・地質・湧水・立木など良く観察して施工計画せよ。
2. 人に聞くより物に聞け。
3. リーダーは、やらせる勇気、スタッフは、やる勇気。

4. 常に現場は変化させなければいけない。
5. 作業前に今日の目標を定めて遂行せよ。
6. 他所を見て更なる改善方法を考えよ。
7. 1立方メートルでも多く、楽に作業できる方法を考えよう。
8. 6割良いと思ったらやってみる、何もしないより失敗は後に役立つ。
9. やって見せ、やらせて見てホローする。褒めてやらねば人は動かず。
10. データを活用して、より以上の仕事せよ、ワーストは潰せ。
11. スタッフは2つ上より下を見よ。
12. やっておけ、言うだけでなく後で確認を。
13. 良いと思ったら直ぐに提案。
14. 良い事、悪い事の真因を掴め。
15. とがった人間を入れよ。イエスマンは骨なし。
16. 給料は、どこから生まれるか考えよ。
17. 友達が縦に沢山できる人は、横にできる人より視野が広まり成功する。
18. 「ヒヤリ！」とした事は直ぐに仲間や上役に報告して改善に役立てよ。
19. 仕事は人が見ている時より見ていない時ほど良く働く。神様は観ている。
20. 早く・安く・安全で良い施工して次期営業に繋げよう。

「オペ魂 10 訓」、「オペ言い伝え 20 話」を思い出しながら教科書風に記しました。「やる・やらない」・「できる・できない」「成功・不成功」はその人の心の問題ですが、やらせる人の熱意と人間性次第と思います。

(写真右は S34 年頃の金子さんと D942)



#### 《現場で経験した楽しい事、ほろ苦い思い出》

綾部・鶴ヶ岡：昭和 29 年当時の河川復旧築堤工事では、川底の砂利と水を排土板で一揆に押し上げると鮎・鯉・ハヤなど多くの魚が採れ、宿泊先民家のおばさんに料理してもらい美味しく食べた。氾濫の跡で立木の根元や流木を排土板で押し上げると 1 m 程のグロテスクな大山椒魚（天然記念物）が採れ池に放した。

殿山ダム：道路付替や学校・民家の移転の敷地造成現場では、春になると近くの綺麗な川の砂利の淀みにウグイが卵を産むため、20センチほどの雌雄が 50～60 匹集まり、掛け針を投げ入れると容易に採れ、焼いて食べ大変に美味かった覚えがある。

三沢飛行場：八戸の旧陸軍飛行場跡の工事では、掘削中に地下ケーブルや爆弾の残材が掘り出されると、古鉄屋に売って仲間と飲み食いした事もあった。入社当時の日給 230 円、昇給 5～10 円からすれば、その臨時収入のありがたさを想像されたい。

桜ヶ丘など宅造：ブルドーザで掘削中に竹の子、自然菌が出てきた。竹の子は 2、3 月のはしりは軟らかく美味しく戴いた。八日市インターチェンジや広島団地造成工事で

は場内に生えた松茸を焼いて食べ美味しかった事は楽しい思い出と成っている。  
苦い思い出：22～24歳の頃、地元の炊事のおばさんや労務のおじさんと話していると、うちの娘を嫁にどうかとか、隣は養子を欲しがっている等、結婚話がよくあり逃げ廻った。町に出れば映画館で女に手を握られ都会に連れて行ってとせがまれたりした。月一回の帰宅では、3歳の長男、2歳の次男に「お父さんは僕のうちに泊まりに来たの？」と他人扱いされたのには閉口した。

名所旧跡周り：休日、雨降りには、現場近くの名所旧跡に出掛け、県内は勿論、足を延ばして観て廻れたのはありがたかった

昭和39～43年は、東京支店の行田武蔵水路、赤城道路、中央道殿山などの機械施工管理に従事した。44年には岐阜美濃加茂敷地造成、その後高崎コロニー、志免団地、烏山ゴルフ工事などを担当した。